



「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に必要な3つの力

1 教材研究力 2 目標設定力 3 授業構築力



1 教材研究力

教材の内容を理解し、指導することを確認するだけでは教材研究とは言えません。多様な見方・考え方を育て、新たな気づきを促すための教材研究が必要です。

〔「言語」にこだわった教材研究の例〕

古池や蛙飛び込む水の音

蛙がポチャンと古池に一匹飛び込み、辺りの静寂が一層強く感じられる俳句とされている。

【「古池」にこだわって教材研究するとみえてくること】

- ・「古池」は、「今は使われていない荒れた池」という意味が分かる。
- ・荒れた池を、感動の中心を表す「や」で肯定的に強調していることから、語り手（作者）は、普通の人々が好まない池によさを見いだす特別な感性をもった人物ではないかと類推できる。

切れ字「や」で古池が強調されていることや、語り手（作者）の価値観を踏まえた学習活動を構想することにより、子供たちに新たな気づきを促すことができます。

2 目標設定力

目標はその時間・その単元の到達点です。到達点とするためには、目標は具体的である必要があります。

〔小学校5年算数科 例〕

分数×分数の計算の仕方を考える

〔中学校3年社会科 例〕

三権分立の意義について話し合う

具体的にすると

分母と分母、分子と分子をかける意味を、言葉や図等を使って説明することができる

三権分立が権力集中を避けるために作られた制度であることを二つの歴史事象から捉えることができる

どのような筋道で考えさせ、言語化させるかが明確になります。

3 授業構築力

探究型授業

- ①【導入】学習課題（めあて）の設定
- ②【展開】個の学び（自力思考）
↓
グループでの学び合い（話し合い、討論）
↓
学級全体での学び合い（グループの意見発表→話し合い、討論）
- ③【終末】振り返り（まとめ）

話し合い、討論のねらいを明確にしましょう

- ①友達に説明する
- ②様々な見方を出し合う
- ③違いを検討する
- ④共通性・一貫性を見いだす
- ⑤新たな証拠を見付ける
- ⑥新しい見方・考え方を発見する

探究型授業は、子供たちの主体的な学び、深い学びを創り出します。子供たちにどのような力を身に付け、育てるかを明確にした上で、子供の思考・判断を言語化する場面を設定し、より明確な思考・判断に高める授業を構築する必要があります。

〔ねらいを明確にした話し合いの例〕

今日は、子供たちが、「分母と分母、分子と分子をかける意味を、言葉や図等を使って説明できる」ようになることが目標だ。

$\frac{1}{2} \times \frac{1}{3}$ の計算では、どうして分母と分母、分子と分子をかけるのですか？

あつ、分かった

じゃあ、友達に分かるように説明してごらん

3×2のときは3が2つ分だから、2分の1を3つに分けた1つ分ということだと思う

う〜ん…、どうということ？

図で説明すると、これが「2分の1」でしょ。これを3分の1にするのだから、3つに分けると…

そうか、全部で箱が6つある。その1つ分だ！

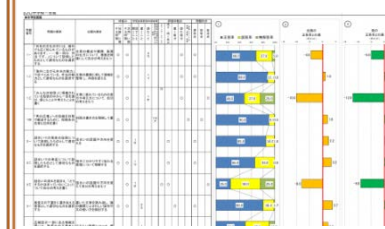
「2分の1」の2と「3分の1」の3をかけると6になるよね

だから、分母と分母をかけるのね

「2分の1」×「3分の1」は、2つに分けた長方形をまた3つに分けるから、分母と分母をかけるといってことか

全国学力・学習状況調査 分析支援ソフト「我が校の学力・学習診断ソフト」を活用し、2学期からの授業改善に生かしましょう！

学力向上推進チームから



教科区分ごとの全問題の正答率を確認し、自校の強み弱みを見付けましょう。

質問紙の項目ごとに、自校と全国、県を比較してグラフにし、学習状況を把握しましょう。

授業改善には、誤答分析が有効です。

解答類型のグラフで誤答を分析し、自校の課題に応じた指導につなげましょう。

